

作品の講評

□ 最優秀賞 「右まわりの竜太」

竜神の子ども「竜太」が主人公のおはなしで、竜が左回りの習性であるという独自の設定が非常に興味深く、台風との絡みも巧妙に描かれています。つむじ風を起こして、いたずらをする竜太の様子は、子どもたちが楽しい想像の世界を広げると思います。また、「みんなと同じことはしたくない」という竜太の性格が、結果的にみんなの役に立つという展開となり、村人に褒め称えられるけれども、照れていたずらをする竜太の様子が、かわいらしく描写されています。

村への台風の接近を前に、竜神の所へ行き、直談判する場面は、竜神の存在が少し身近に感じられました。また読者が子どもたちであるので、「神通力」をわかりやすく描くことで、さらに作品の魅力が増すと思います。

□ 優秀賞 「龍の涙」

自分の苦手なものを克服しようとする勇気や元気を読者に与えるおはなしです。登場人物の設定も子どもたちに親近感を感じさせます。烏龍茶の「龍」を元に「烏龍茶を飲むと龍のように強くなれるらしい」という発想がおもしろいです。また、涙がこぼれ落ちてきらりと光るガラス玉になる描写はとても幻想的で、丁寧に描かれています。

夢から覚めると、ガラス玉が枕元に落ちているという場面は、もう少し丁寧に描写することで、驚きや感動をより強く伝えることができると思います。

冒頭の信ちゃんが心の中では「ごめんなさい」といつも謝っているという部分は、子どもたちが共感し、ポジティブな感情を抱けるような表現にすることで、さらに良くなると思います。

□ 優秀賞 「りゅうのともだちづくり」

とがったはや大きな体なので、みんなからこわがられている「しましまのりゅう」のおはなしで、みんながこわがらないように、はいしゃさんに、はをけずってもらおうとするところがユニークでおもしろかったです。はいしゃさんにサーベルタイガーをえらんだところや「トキトキのは」といういいかたは、とてもおもしろくて心にのこりました。りゅうの大きさを、「ジンベイザメを食べられるくらい大きさ」とかいたことで、おはなしをよむ子どもたちが、体の大きさをそうぞうしやすくてよいです。

りゅうのふだんのせいかつや、まちのようす、ハトといっしょにかみしばいを作るところは、もうすこしくわしくかくと、もっとおもしろくなると思います。

☐ 優秀賞 「竜の虫歯」

掛け軸の絵の竜が虫歯になるというアイデアがユニークで、おおらかな雰囲気漂う楽しいおはなしです。掛け軸の竜の目が動くという描写もおもしろく、また、歯の治療というのも身近で日常生活に結び付いているため、子どもたちにとってわかりやすいと思います。

歯医者さんの設定を、たかしくんの行きつけの歯医者さんとして描くことで、物語がより伝わりやすくなると思います。反対に、特別な治療をする歯医者さんと設定して、空想の世界を広げるのも面白いアイデアになるかもしれません。また、最後のおじいちゃんの掛け軸を見た感想、「今日の竜はきれいだな」の部分は、掛け軸の竜の変化が伝わるように描くことで、読者にとってわかりやすく、さらに良くなると思います。

☐ 優秀賞 「黒い竜と白い竜」

ひとりぼっちの黒い竜と、けがをして飛ぶことができない白い竜の交流を描いたファンタジックな作品で、キャラクターや場面がわかりやすく描かれていて、イメージしやすいです。

白い竜のいる山や洞窟の位置関係については、おそろおそろ入って行った洞窟の中にある竜のウロコが光っていて目に付いたのだろうかという疑問が残りました。細かい設定や語られない背景を整理することで、ファンタジックな作品に説得力を持たせることができ、さらに良くなると思います。

☐ 優秀賞 「ステラのしっぽ」

草食恐竜の親が肉食恐竜から子どもたちを守るというストーリーで、恐竜の体の特徴を活かした物語になっています。しぐさや行動がわかりやすく描かれており、恐竜を知らない子どもたちでも、おはなしの中に入り込みやすく、想像を楽しむことができる作品です。

最後の段落については、おはなしから十分伝わる内容であるため、省略して子どもたちが各自で感じるようにすると、さらに良くなると思いました。